

中し研だより



令和5年 7月号 (No.1) 発行 LD等支援教育研究会

LD等支援教育研究部会が3年目を迎えることができました。

研究部会では、通常学級で支援が必要な生徒への教育の推進及び充実・発展を図ることを目的としています。活動としては、LD等支援教育の理論や実践の研究、及び調査やLD等支援教育についての研究会や研修会、及び講演会協議会等の開催を行います。また、通級・UD・ICTの研究部門を設置し、実践の研究及び推進を図ってまいります。

6月21日に第1回の研修会・総会がありました。第1回総会に先立って、

校内における個別の指導計画の作成を目指して

との演題で、大枝中学校 小山 千栄美 先生より、長年、通級指導に携わり、通級担当や総合育成支援主任の立場から、自分が出来ることを考え、取り組んでこられたこととお話いただきました。

はじめに、「個別の指導計画とは」というテーマで、京都市教育委員会のホームページより、「子どもたち一人一人の社会参加と自立を目指し、組織的な体制のもとで、個の教育ニーズに応じた教育活動を学校全体で展開するための根拠と道筋を示すもの」さらに、文部科学省のホームページから「個々の児童・生徒の実態に応じて適切な指導を行うために学校で作成されるものである。教育課程を具体化し、障害のある児童・生徒など一人一人の指導目標、指導内容及び指導方法を明確にして、きめ細やかに指導するために作成するのである」と紹介いただきました。

次は、「個別の指導計画を作成してもらうために大事にしていること」

- ①見通し：年度はじめの職員会議や研修会で個別の指導計画の**1年間の流れ**と**誰が対象**なのか伝える
- ②視覚的：学年ごとに**どこに記入する**のかをわかりやすく締め切りを明確にしたり対象生徒を一覧にしたりする
- ③アナウンス：書く時期がいろいろな業務と重なるため、締切の1か月前から声かけを行う
- ④個別：書き方がわからないなどの先生方に個別に対応する
- ⑤管理：提出先を明確にする
- ⑥感謝：感謝の気持ちは大切



最後に、「個別の指導計画に関して思うこと」

個別の指導計画を作成することで、

「きめ細かな指導」→何が問題か、目標は何かが見えてくる

「子どもの情報共有ができる」→共通理解・校内体制作りに役立つ

「子どもにとって目標が明確になる」→求められていることを自己理解する

個別の指導計画があることで、**児童・生徒のことを深く考える機会**になっている。さらにわかりやすく、積極的な活用ができるように改善していくことも大切だと最後にお話いただきました。

後半は、研究報告として、

中L研版 個別の指導計画

との演題で、大宅中学校 堀野 大輔 先生 よりご講演いただきました。

はじめに、個別の指導計画（中L研版）の作成の経緯について

各校における個別の指導計画の運用実態（例）

- ①満足な作成ができていない
- ②作成できているが書いておしまい
- ③書きにくい
- ④教員間で児童・生徒の困りや具体的な支援内容についての話し合いまではできていないなどの声を聞き、令和4年度に中L研で個別の指導計画の見直しが始まりました。

次に個別の指導計画（中L研版）の変更のポイントについて

- ① 生徒の変化・変容を一目見て振り返ることができるように、3年間で1つのものを作成する。これにより、記入する箇所が減り、書きやすくなる
- ② 学習面（各教科）の記入欄を1つにする

各教科に共通する目標を記入する

例えば、板書量が多い教科（国語・社会）では、板書内容を撮影しておき、聞くことや考えることに集中する

教科の目標に特化してもよい

例えば、発音と文字を対応させて、3～4文字程度の英単語の読み書きができる（英語）

最後に、個別の指導計画は、「**生徒理解のためのツール**」だという言葉が印象に残りました。



<幹事長より（衣笠中学校 通級担当 小山享子）>

お忙しい中、研修会及び総会にご参加いただきありがとうございました。

引き続き「よりそい ～連携から協働へ～」をテーマに通常学級で支援を必要とする生徒への教育の推進及び充実・発展を目指していきます。

昨年度より個別の指導計画の書式等の見直しに取り組み、今年度いくつかの中学校で活用し、その活用状況をもとにより良いものにしていきます。また、UDに基づいた授業づくり及び環境改善に取り組んでいる中学校の視察に行く予定をしています。夏季研修、冬季研修については講師を招きLD等支援教育の充実につながる講演会にしていきます。

中し研夏季研修のご案内

8月2日（火）9時～総合教育センター
テーマ

「京都市立伏見工業高等学校（定時制）から京都市立奏和高等学校に
おける特別支援教育および通級指導教室の取り組み」（仮）

講師： 奏和高等学校 小槇哲平先生・西本幸史先生

伏見工業高等学校（定時制）岡村友加里先生

※詳細については近日中にお知らせします。